


ま な び や

日黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.42 2016年2月3日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。一昨年1月の大雪ダブルパンチに懲りて、丈夫な雪かきスコップを用意したものの、昨年は雪降らず、今年も一度だけ古い雪かきで間に合う程度の積雪。新品二本はまだビニールがかかったままです。2月4日の立春を過ぎれば、日差しも春めき、心は軽くなり、白木蓮のつぼみもふくらんで、今年もまた、年度替わりのシーズン。くしゃみ連発は、早くも花粉症の兆しでしょうか。「栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした」(マタイ6:29)

校長 関野祐二

● 盛況だった講演会ふたつ

昨年10月のゴードンコンウェル神学校ホリンジャー学長講演会は、特別行事の少ない本校に新鮮な風を吹き込んでくれました(詳報は神学校ニュース125で)。明けて1月、今度はリバイバル聖書神学校の山崎ランサム和彦校長による特別講義と公開講演会を開催。一昨年11月の全国神学研究会議以来、問題意識や方向性に多くの共通点を発見し、ブログへのゲスト投稿はじめ、公私の交流が続いて来ました。神学誌掲載の論文を在校生に読ませたら、「〇〇〇さまはいつ来るのですか」と韓流スター並みの大人気。満を持して1月を迎えたのでした。月曜夜の新約神学、火曜午前の組織神学Ⅲは在校生自由参加の拡大授業とし、教室では入りきれずチャペルに移動。「神の国」「使徒的解釈学」それぞれすばらしい内容でした(在校生限定でごめんなさい。「鏡を通して」ブログや神学誌月刊誌掲載文でどうぞ)。火曜午後「N. T. ライトの神学: その一断面」公開講演会は、外部からのお客さまを含め60名超の集会に。聖契神学校ホームページで音声をストリーミング配信していますから、ぜひお聞きください(けっこういい音ですよ)。ローマ帝国支配を背景とした新約文書の、間接的な反帝國的解釈を教えてください。当時の空気を知った上で聖書を読み、ということですね(聖書解釈もKYはだめ)。講演後のお茶会では、駆けつけてくださったライト読みのエキスパートや邦訳者が何人もおられ、神学生にはよい刺激となりました。そうそう、ランサム先生は寒い中、月曜夜の屋上星見にもつきあってくださいましたよ。

● セイケイに池〇彰現る

本校は二十代から七十代まで、男女半々のまぜこぜ共同体。教会や所属団体は異なり、フルタイム寮生もいれば、現役社会人や主婦、引退組など実にさまざまです。互いの距離感が絶妙で、過去のキャリアやプライベートには必要以上に立ち入りませんし、あえて持ち上げることもしません。でも稀に、皆の益&クラス学習の助けとなるよう得意分野を生かしてもらおうことも。さて、担当クラスはいつも祈りでスタートするのですが、昨今のヨーロッパや中東の不穏な情勢、国内政治や経済の緊急課題が頭を駆け巡り、この世界でいかに包括的福音&宣教を生きるか、これが

ら学ぶ神学を結びつける（大それた）祈りの文言が口からこぼれます。「アーメン」と声を揃え、目を上げると視界に入るのは、元マスコミ職業人のS兄。思わず、「〇〇をどう考えたらいいのですか」と聞いてみれば、立て板に水の実にわかりやすい世界情勢分析で、ニュースキャスターそのものです。見るとクラスはシンと静まりかえり、聞き入るクラス学生の真剣なこと！ といえば、別のクラスには元歴史の先生がいて、これまた興味深い歴史解説が展開されたことも。自分の天文ネタは情熱ばかりで深みがなく、趣味の域を出ていないな、と反省しきりです。「センセー、今の星の話、来週のクイズ（小テスト）に出ますか」と聞かれました。出してみようかな。

● 自分への弔辞を語る

年二回の教師会は、神学校からの連絡事項、互いの近況報告に続いて、ミニレクチャーと称する研究発表を順番に担当しています。今年1月の教師会担当は、ユダヤジョーク&レビ記講解（いずれもチャペルでの定番）のI誠先生（古墳マニアです。科目担当は牧会カウンセリングと中間時代）。なんと今回は白い紙を渡され、「自分への弔辞を書いてください」との課題が出ました。否定的なことばはいっさい禁止、自分を褒めるのみの内容という条件付き。さあて困りました。「みんなの前で読むんですか」「もちろん！」。左隣のY先生は一心不乱に何かを書いているし、右隣のK先生も余裕綽々（そういえば、自分の葬儀で親族代表が読む挨拶文を準備済みとのこと。余計なことを言われないための予防策だそう）。それでもなんとか書いて順番に発表。皆さんは上手に自分を褒める内容でしたが（知られざるエピソードも）、自分のは「〇〇さんは二十代で献身し、全力で主に従って来ました」などなど抽象的で、性格を褒めることなど恥ずかしくてとても無理。自己顕示欲が強かった十代の自分に別れを告げて受洗した反動か、いかに自分を肯定的に受け止めて来なかったか思い知らされました。後で家族に話したら、「その弔辞を読みたい」と。残念でした、とうに処分済みです。各種取り揃った望遠鏡をどうするかは書き残しておきますね。

● 入試、卒業式、入学式に向けて

春が近づけば今年度のまとめと新年度開始の準備です。わが担当の組織神学全60回もあと数回を残すのみで、ゴールの競技場が視界に入って来ました（最終回には特別メニューの昼食をふるまう予定）。恒例の希望制個人面談も後半です。その間を縫うようにして、受験問い合わせや学校見学が続々（チラホラ）。どうぞ、主に促され導かれた方々が、教会の後押しにより多く受験されますように。願書締め切りは2月27日、試験日は3月4日です。14日の卒業式には、宗形和平（むなかたかずへい）牧師（流山福音自由教会）をお迎えし、卒業生（基礎科2名、専門科4名の予定）と出席者にみことばの説教。あの卒業式独特の解放感と高揚感がまた巡ってきます。入学式は4月1日（金）。今回は、「教育科」開設準備で燃えに燃えている熱血Su先生の説教です。新年度クラスは翌2日（土）の「神学英語／世界と教会」「聖書解釈学」から。新設科目と、自称「全授業のへそ」クラスで、一気にスタートダッシュをはかります。ついてきてくださいね。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業を控えた方々の学び仕上げと卒業後の働きが祝福されるように。在校生の後期授業（3月12日終了）が最後まで守られ、新年度に向かって良き備えが出来るように。
- ・ 3月4日の入学試験に向けて、4月より新たに学ぶ献身者が多く与えられるように。
- ・ 本校の運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。